

# わたしと笠間 1

笠間と日動画廊の縁〜長谷川宗民はせがわ そうみん〜

銀座の日動画廊がなぜ笠間に美術館を設立したのかとよく聞かれる。理由は簡単に長谷川家の先祖が笠間藩のご典医に招聘されたことから、笠間が代々のルーツであったからである。

初代の長谷川宗民は古河藩閩戸村（現在の茨城県古河市）の名主の家に生まれた。長崎で蘭医術を学び、四十五歳の時に常陸笠間藩八万石（牧野氏）の藩医となった。二代目宗仙、三代目宗円、四代目宗興とその役を続け、五代目の裕ゆたかの時に医学から神学に転向し牧師となる。六代目が夫の父の長谷川仁である。

維新後の長谷川家はご典医の頃と異なり、仁は子だくさんな牧師の息子として生まれた。学費免除の神学校を出て牧師となるが、昭和三年

に画商に転向した。洋画商になることを勧めたのは水戸中学で親友となった松村敬次郎であった。敬次郎の弟が東京美術学校（現在の東京藝術大学）の洋画科を卒業しており、これからは、洋画の時代が来る、洋画商には将来性があると聞いたからである。

父親が福島、仙台、水戸と教会本部の意向で転勤したため、仁は各地を転々としたが、父親が休養のために戻った郷里の笠間が一番思い出に残ったと生前、よく話していた。

その笠間に仁が美術館を作りたいと思ったのは自然の成り行きであった。



「長谷川宗民像」  
笠間日動美術館蔵

笠間日動美術館

副館長

長谷川智恵子はせがわ ちえこ

## ミス・インターナショナルが笠間市に!

平成26年11月16日（日）、2014ミス・インターナショナル世界大会の入賞者5名が、「被災地を元気に、地域での交流を深める」という目的で、笠間市を訪問しました。

菊人形展の観賞と舞楽祭の見学に訪れた笠間稲荷神社では、多くの市民や観光客の方たちとの写真撮影に応じるなど、地域の人たちとの交流を楽しんでいる様子でした。

また、笠間焼のろくろ体験や点茶などを通して日本の文化を体験した5人は、慣れない作業に苦戦しながらも、たくさんの素敵なお顔をみせてくれました。



初めての点茶体験



艶やかな菊花の前で